５５年かかってゴールインした日本人選手

日本は１９１２年の第５回ストックホルム大会からオリンピックに参加した。日本ではまだオリンピックはほとんど知られていなかった。選手を決めるマラソン大会が開かれて、２０歳の学生が２時間３２分４５秒の記録で勝った。これはそのときの世界記録より２７分速かった。学生の名前は金栗四三。

金栗はオリンピック選手に選ばれた。ストックホルムへ行くお金がなかったが、兄や友達がお金を集めてくれた。それでやっとオリンピックに参加することができた。金栗はもしかしたら１番になるかもしれないと思われていた。しかし、マラソンが行われた７月１４日はとても暑い日だった。金栗は走っていてだんだん気分が悪くなった。水を飲んだり、頭から水を浴びたりしたが、３２ｋｍの所で倒れてしまった。近くに住んでいた大切な人に助けられて、その人のうちに泊まった。そして、次の日、元気になって、日本の選手がいるホテルへ帰った。

「消えた日本人」はスウェーデンのニュースになっていた。一生懸命捜していた人はみんな金栗を見たとき、とても喜んでくれた。しかし、金栗は恥ずかしかった。

１９６７年、７５歳の金栗は招待されてストックホルムへ行った。競技場でたくさんの人に迎えられた金栗はみんなの前をゆっくり走って、ゴールインした。「ミスター・カナグリ、ニッポン」。ゴールイン。時間は５５年…。これでストックホルム大会は全部の競技を終わりました。」金栗は言った。「長い試合でした。始まってからゴールインまでに孫が５人できましたよ。」